

図書館サービス論

- ブックスタートと児童サービス -

2014年7月18日(金)、21日(月)

鈴木 佳苗

授業予定

1. 読書と子どもの発達

2. ブックスター

3. 児童サービス

4. 総括

読書の意義に関する指摘(法令など)(1)

- 2000年 教育改革国民会議報告
「人間性をより豊かにするために、読み、書き、話すなど言葉の教育を大切にする」
- 2001年12月 子どもの読書活動の推進に関する法律
「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」

読書の意義に関する指摘(法令など)(2)-1

- 2002年8月 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第一次)
 - ・2001年12月に議員立法により成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」第8条の規定に基づき、施策の総合的かつ計画的な推進を図るために政府が策定し、国会に報告するもの
 - ・子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を推進
 - ・おおむね5年間(2002～2006年度)にわたる施策の基本的方向と具体的な方策

読書の意義に関する指摘(法令など)(2)-2

＜家庭、地域、学校を通じた、子どもが読書に親しむ
機会の提供＞

- 家庭教育に関する学習機会等を通じた、親に対する、読書の重要性の理解の促進
- 図書館等でお話し会などの活動や関係機関と連携した取組の充実
- 「子どもゆめ基金」の助成による、民間団体の活動の支援
- 学校における学習活動を通じた読書活動の推進
- 学校における「朝の読書」の奨励や目標を設定すること等による、読書習慣の確立

読書の意義に関する指摘(法令など)(2)-2

＜図書資料の整備などの諸条件の整備・充実＞

- 図書館や公民館図書室など地域における読書環境の整備
- 図書館の図書資料の整備や情報化の推進
- 図書館司書の養成・研修の充実と適切な配置
- 学校図書館図書整備5か年計画による図書資料の計画的整備
- 学校図書館の情報化の推進
- 司書教諭の発令の促進、学校図書館担当事務職員の配置やボランティアの協力

読書の意義に関する指摘(法令など)(2)-3

＜学校、図書館などの関係機関、民間団体等が連携・協力した取組の推進＞

- 図書館を中心とした他の図書館、学校図書館、保健センターなどの関係機関、国際子ども図書館等との連携・協力。
地域の推進体制の整備等

読書の意義に関する指摘(法令など)(2)-4

<社会的気運醸成のための普及・啓発 >

○子ども読書の日(4月23日)を中心とした

全国的な啓発広報

○文部科学省の専用ホームページによる関連情報の広範な
提供

読書の意義に関する指摘(法令など)(3)-1

- 2005年7月 文字・活字文化振興法

＜目的＞(第1条)

「この法律は、文字・活字文化が、人類が長い歴史の中で蓄積してきた知識及び知恵の継承及び向上、豊かな人間性の涵養並びに健全な民主主義の発達に欠くことのできないものであることにかんがみ、文字・活字文化の振興に関する基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、文字・活字文化の振興に関する必要な事項を定めることにより、我が国における文字・活字文化の振興に関する施策の総合的な推進を図り、もって知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。」

読書の意義に関する指摘(法令など)(3)-2

＜地域における文字・活字文化の振興＞(第7条)

「市町村は、図書館奉仕に対する住民の需要に適切に対応できるようにするため、必要な数の公立図書館を設置し、及び適切に配置するよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、公立図書館が住民に対して適切な図書館奉仕を提供することができるよう、司書の充実等の人的体制の整備、図書館資料の充実、情報化の推進等の物的条件の整備その他の公立図書館の運営の改善及び向上のために必要な施策を講ずるものとする。」

読書の意義に関する指摘(法令など)(3)-3

＜学校教育における言語能力の涵養＞(第8条)

「国及び地方公共団体は、学校教育において言語力の涵養が十分に図られるよう、効果的な手法の普及その他の教育方法の改善のために必要な施策を講ずるとともに、教育職員の養成及び研修の内容の充実その他のその資質の向上のために必要な施策を講ずるものとする。

2 国及び地方公共団体は、学校教育における言語力の涵養に資する環境の整備充実を図るため、司書教諭及び学校図書館に関する業務を担当するその他の職員の充実等の人的体制の整備、学校図書館の図書館資料の充実及び情報化の推進等の物的条件の整備等に関し必要な施策を講ずるものとする。」

文化庁「平成14年度 国語に関する世論調査」

- 全国16歳以上の男女3000人を対象

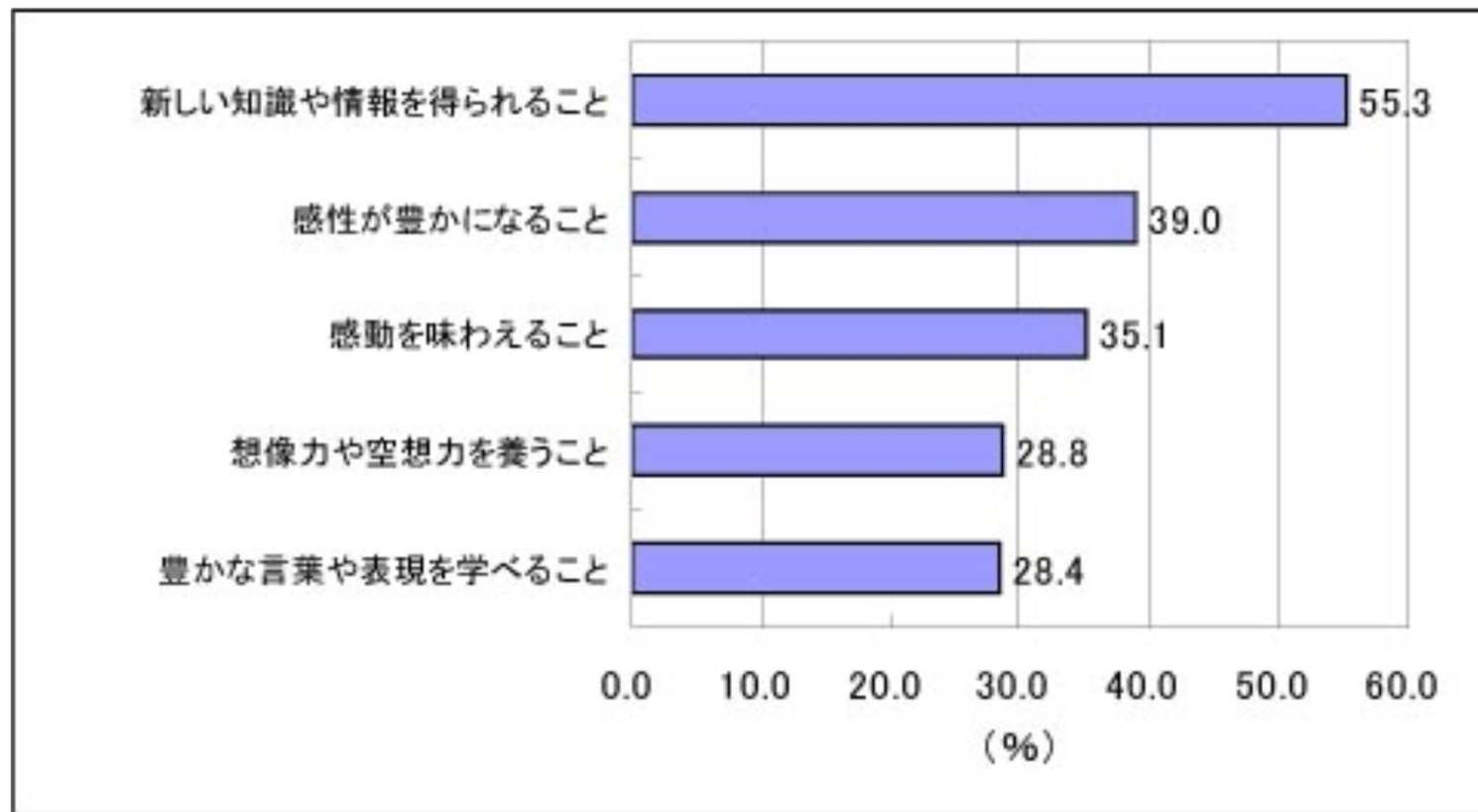


図1 読書をすることの良い点

読書から得られるもの

- 様々な体験（擬似体験）

- 感動

- 想像

- 創造

→ 読書の楽しみ、喜び

読書の影響可能性

- 読書の影響を実証的に検討した研究は少ない
→ 影響可能性を示唆する研究

- 読書に期待される効果（文献調査より）

読書に期待される効果(鈴木, 2012)

■心理的側面への効果

- 心の成長
- 心の癒し

■学力的側面への効果

- 学力の向上
- 学習意欲の向上

心の成長

感受性を育む
自己形成
耐性力向上
他者への共感

心の癒し

改善
安定

学力の向上

思考力を身につける
想像力を身につける
読解力向上
表現力を高める
知識を得る

学習意欲の向上

集中力
好奇心

読書の効果・影響に関する研究

■ 心理的側面

- ・社会性への影響(Suzuki, 2010)

■ 学力的側面

- ・海外の研究のレビュー(Krashen, 2004)
- ・情報活用能力への影響(足立ら, 1999)

子どもと読書に関する理論

- 読書興味の発達

- 読書能力の発達

- 発達段階、発達課題

- ◎ 適書を適者に適時に出会わせる機会を作ることが重要

- 子どもたちの発達に関する知識が有用

子どもと読書に関する理論

- 適書を適者に適時に出会わせる機会を作ることが重要



- 相対的な適書・不適書の判断



子どもたちの発達に関する知識が有用
→ 読書興味・読書能力
一般的な発達

「発達」について

■ 発達段階

なめらかな曲線上に発達していくのではなく、
階段状に発達していく

■ その時期ごとに、克服すべき発達課題がある

- ・ 発達課題：発達上の困難、乗り越えるべき課題

■ 発達課題と読書興味の関係

- ・ 発達過程にある子どもたちは、それぞれの段階において、
発達課題に即したものに興味をもつ

■ 読書興味：どのような読書材に興味を示すのか？

一般的な発達段階

(阪本, 1971; 植松・鈴木, 2012)

■しつけ期

■徒党期

■第一反抗期

■第二反抗期

■想像生活期

■連中期

■知識生活期

■個性自覚期

■社会適応期

読書興味の発達段階（読書教育研究会編著, 1995; 阪本, 1971; 植松・鈴木, 2012）

■ 子守話期

■ 物語期

■ 昔話期

■ 伝記期

■ 寓話期

■ 文学期

■ 童話期

■ 思索期

読書能力

■ 読書能力とは

- 読書を楽しみ、読書活動の中から喜びと感動を見出す力

■ 読書のレディネス

- 読書を楽しむことが可能な心理的準備ができあがった状態
- ストーリーの流れを追い、ストーリー全体を楽しむことができる状態

読書能力の発達段階 (読書教育研究会編著, 1995; 阪本, 1971; 植松・鈴木, 2012)

■ 前読書期

■ 読書入門期

■ 初步読書期

■ 多読期

■ 成熟の読書期

子どもたちへの本の紹介

- 一般的な子どもたちの読書興味を基準に、
個々の子どもたちの状態に合わせて
紹介する本のジャンルを検討できる
- 特定のタイプの子どもへの働きかけへの示唆
 - 読書に興味のない子どもへの働きかけ
 - 読書に偏りがある子どもへの働きかけ

授業予定

1. 読書と子どもの発達

2. ブックスター

3. 児童サービス

4. 総括

公共図書館における児童サービス

- 児童サービスの対象年齢
 - 広義には、0～18歳
 - 狭義には、主に小学生を対象

（多くの場合、小学生時代に読書習慣が形成されること、調べ学習がこの時期に始まることなどから、日本でも小学生へのサービスには早くから力を入れてきた）

乳幼児サービス

- 乳幼児の定義

- ・乳児の定義

- 「母子保育法」: 1歳に満たない子ども

- ・幼児の定義

- 「児童福祉法」: 乳児期満了(満1歳)から学齡(小学校就学)まで

- ・発達心理学の分野: 乳児期は0歳から1歳半、幼児期は1歳半から6歳頃までを指す

- ・公共図書館の乳幼児サービス: 主に就学前の子どもを対象

日本における乳幼児サービスの歴史(1/2)

- 図書館サービスの初期の段階では乳幼児に対するサービスはなく、またそののちは児童サービスの中に含まれていた
- 1980年代から公共図書館で取り組まれてきている
- 乳幼児サービスが注目されるようになった理由
 - ・乳幼児は誰かに読んでもらうことが中心である
 - ・言語獲得において重要な時期であり、この時期に読み聞かせやお話をしてもらうことが子どもの言葉の発達に大きな影響を与えると考えられるようになった

日本における乳幼児サービスの歴史(2/2)

- 乳幼児サービスは子ども自身だけではなく、子どもに本を読んだりする保護者へのサービスに特に重点を置いている
- 近年は子育て支援とも深い関連を持ちつつある

IFLA

- 国際図書館連盟

(International Federation of Library Associations and Institutions)

- 児童・ヤングアダルト図書館部会

「乳幼児への図書館サービスガイドライン」

「公共図書館児童サービス実態調査 2003」(日本図書館協会)

- 以下の実施率は、乳幼児サービスを実施している
1438館(全体の55.9%)に対する割合

- ・コーナーの設置
- ・パンフレット・ブックリストの作成
- ・保健所等との連携
- ・その他

(おはなし会、ブックスタート、本の紹介、わらべうたのつどい、
乳幼児向け絵本の展示、講演会、読み聞かせ、広報誌へのPR
など)

ブックスタートとは

- 地域の保健センターで行われる
0歳児健診の機会に、すべての赤ちゃん
と保護者にメッセージを伝えながら絵本
を手渡す運動

→1992年、**英国**で識字率の低下などの問題の
対応策として開始
この運動は英国各地で広まり、2004年10月時点
で英国全土の90%以上の自治体が採用

英国での取組

- 理念

「Share books with your baby」

- 読書推進活動という枠に留まらず子どもの育つ環境を豊かにする取り組みであると捉えられた
- 乳幼児保健の専門家などが関わる、社会的に広い支援を得られる活動として発展

日本の取組

- ブックスタート支援センター
- 組織：児童文学者や小児科医師、また発達心理学、保育、図書館、地域づくりなど様々な分野の専門家が理事として参加
- 運営：企業などからの会費と、各種資料やブックスタート・パック等の販売収入によって支えられている

ブックスタートに関する調査

(中村・南部, 2007)

■ 調査対象

- ・関東でブックスタートを実施している69の自治体で、ブックスタートを主催している機関
→58自治体から回答(回収率は84.0%)

■ 主な質問項目

- ・主催機関
- ・連携体制
- ・目的
- ・期待される効果
- ・実施における工夫点
- ・実施における苦労点

フォローアップ

- ブックスタートプラス
- セカンドブック

乳幼児のための絵本

- [とくしまの赤ちゃんのためのブックリスト100ジャスト！](#)
- [ファーストブックリスト](#)（茅野市）
- [ブックスタート赤ちゃん絵本リスト](#)
（ブックスタート支援センター）
- 公共図書館の赤ちゃん絵本の選書の基準（熊取町立図書館）

授業予定

1. 読書と子どもの発達

2. ブックスター

3. 児童サービス

4. 総括

児童の定義

- 社会通念や法律によって異なる
- (日本の場合) 児童福祉法(18歳未満)
- 労働基準法／政府の人口統計(15歳以下)

児童図書館の目的

■ 公共図書館の原則

- 地域の人々が、読書を楽しみ、必要な情報を獲得し、人間が伝えてきた文化のよりよい部分を受けとめて、人間として常に成長していくために自治体によって公費で設置運営され、広く住民に無料で解放されている
- 児童図書館は、公共図書館の原則のうえにたち、**子どもの特性**を十分に考慮して決定される

児童サービスの目的・指針

■ 児童サービスの目的

H.G.ロング著、友野玲子訳 「児童図書館への道」
日本図書館教会, 1966, p.29.

■ IFLAによる「児童図書館サービスの指針」

児童サービスの内容

- 利用者登録
- 貸出・返却
- 予約・リクエスト制度
- レファレンス・サービス
- フロアワーク
- さまざまな読書活動
- 科学遊び
- ワークショップ

ブックトーク

- ある1つのテーマに沿って、数冊の本を順序よく紹介すること
- テーマの面白さだけが先行し、紹介する本自体はあまり面白くなかったり、対象年齢に対するバランスを欠くものにならないように気をつける

科学遊び

- 科学の本に書かれている実験を、くつろいだ雰囲気のもとで、日常品や食品を用いて、子どもと一緒にやる
- 実験の前、途中、後で、実験に使った本や関連の本を紹介することによって、子どもと科学の本を結びつける
- 直接経験(実験)→間接経験としての読書
- 科学遊びの例

新しい児童サービス

- ワークショップ
- むいぐるみおとまり会

→新しい図書館利用者への働きかけ

ワークショップ

- ・ワークショップ：共同で何かをつくる場所

＜ワークショップの例＞

- ・デジカみしばいワークショップ
- ・調べ学習のワークショップ

児童サービスの評価

- 貸出冊数や蔵書回転率などの日常業務から導き出される統計データや, アンケートのような評価のために実施される調査の統計を基にする数量(的)評価
- 数字として表れてこない部分を評価する質的評価
- 個々の行事の満足度や効果などを測定する個別評価
- 年間を通してのサービスや運営を評価する単年度評価
- 中・長期的視野を持つために行われる, 数年間にわたっての経年変化を調査して実施する評価

→組み合わせ

個々の行事の評価方法

- 公共図書館において、読書の影響を捉えるための手がかりとなる方法

(1) 読書活動の記録を手がかりとする方法

(2) 質問紙法

授業予定

1. 読書と子どもの発達
2. ブックスター
3. 児童サービス
4. 総括

総括(1/2)

■読書と子どもの発達

- ・読書の意義
 - ・読書に期待される効果と読書の影響
 - ・子どもの読書興味・読書能力の発達理論
- 子どもたちが自分たちの目的に応じた本を適切に選ぶことができるように、子どもたちをサポートしていくときの参考になる

◎「**適書を適者に適時に**」

総括(2/2)

- ブックスタート

- ・健診に来る大勢の人に絵本を手渡すことができる
- ・乳児と養育者のコミュニケーション

- 児童サービス

- ・児童サービスの目的、指針
- ・ブックトーク
- ・新しい児童サービス

主な参考文献(1/2): 読書の意義、影響など

- 秋田喜代美・無藤隆(1993). 読書に対する概念の発達の検討:
意義・評価・感情と行動との関連性. 教育心理学研究. 41, 462-469.
- Krashen, S. D. (2004). The power of reading: Insights from the
research. 2nd ed. Westport, CT: Libraries Unlimited and
Portsmouth, NH: Heinemann.
- クラッシェン S. (著), Stephen D. Krashen (原著) 長倉 美恵子・
塚原博・黒沢浩(翻訳) (1996). 読書はパワー 東京, 国土社.
- 鈴木佳苗 (2012). 読書の意義と効果 社会教育 2012 年 11 月号 ,
no. 797, 14-19.

主な参考文献(2/2): 読書の発達理論、 児童サービス、ブックスタートなど

- 植松貞夫・鈴木佳苗(編)(2012). 児童サービス論 樹村房
- 中村仁美・南部志緒(2007). ブックスタートの実態調査と効果的な実施方法についての検討 日本図書館情報学会誌, 53, 75-89.

＜ブックスタートについての発展的学習のための文献＞

- NPOブックスタート(編著)(2010). 赤ちゃん絵本をひらいたらーブックスタートはじまりの10年 岩波書店